



作品名:「礁湖2」(第10回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展 洋画の部 銅賞)

作成者:名嘉地 義昭さん(那覇市)



広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に
共同募金配分金を充てております。

目 次

- 2 特集「令和につなぐ、民生委員・児童委員活動」
- 4 第11回沖縄ねんりんピック開催について
- 5 エルター・メンター制度導入促進助成事業のご案内他
- 6 沖縄県社会福祉協議会
平成30年度事業報告概要
- 9 子どもの居場所ネットワーク事業を通して他
- 10 沖縄県共同募金会
平成30年度事業報告概要
- 12 インフォメーション、沖縄県社会福祉協議会
第35期理事・監事改選、寄付者芳名、表紙の絵他

令和につなぐ、 民生委員・児童委員活動

民生委員制度は、大正6年に岡山県で誕生した「濟世顧問制度」に始まり、平成29年に制度創設100周年を迎えました。本県には、今年4月1日現在、2,036人の民生委員児童委員が、厚生労働大臣の委嘱を受け、地域の身近な相談相手として、高齢者の孤独死や児童虐待等の社会的課題の解決に取り組んでいます。

また今年には、民生委員にとって、3年ごとに実施される一斉改選の年となっています。本特集では、民生委員の活動の「きっかけ」や「やりがい」をとおして、令和の時代にも引き継がれていく民生委員活動の「メッセージ」として、6人の現役民生委員の方にお話しいただきました。

話し手(活動市町村/活動年数)

- ① 喜納 明美さん
(本部町/8年7か月)
- ② 安里 信美さん
(北中城村/24年7か月)
- ③ 兼城 和夫さん
(八重瀬町/8年7か月)
- ④ 宮良 吉雄さん
(那覇市/8年5か月)
- ⑤ 比嘉 臣雄さん
(宮古島市/8年7か月)
- ⑥ 島尻 寛雄さん
(石垣市/8年7か月)

民生委員・児童委員としてのはじまり・きっかけ

皆さんが地域住民の身近な相談相手として民生委員・児童委員になるきっかけは、何だったのでしょうか。

島尻寛雄さん：私は退職がきっかけでした。地域の方から民生委員への就任を依頼されましたが、民生委員が実際にどういう活動をしているかは知りませんでした。



▲島尻 寛雄さん

た。地域の实情もよく分からない状況ではありましたが、引き受けました。
比嘉臣雄さん：地域に暮らす障害のある子どもたちが困っているのに、大人たちが見てみぬふりをすると言う状況を何とかしたいという思いがあったので引き受けました。

喜納明美さん：区長をしていたときに、前任の民生委員・児童委員さんが辞められて、なかなか引き受け手がいなくて、私に声がかかりました。当事、新聞に取り上げられた高齢者の孤独死の記事に「民生委員は何をしていたのか？」と書かれており、大変な仕事だと思いましたが、やってみて大変ではありましたが、みんなの協力を得ながら、どうにかこうにか続けてこれています。

兼城和夫さん：県職員を定年退職後、お世話になった地域のために何かできないかと思っていたところ、前任者から声がかかったのを機に自然体で違和感もなく引き受けました。

宮良吉雄さん：私は定年退職後、3年ほどして、任んでいる地区に欠員がでたので、引き受けました。実は、私より先に妻が民生委員をやっていたので、活動はある程度、知っていました。

安里信美さん：私は平成6年に設置された主任児童委員を引き受けました。当時、児童館で児童厚生員として子どもたちと関わっていました。児童館で様々な親を目的の当たりし、経験上からの助言はやってきましたが、専門的な知識はほとんどなく、四



▲安里 信美さん

苦八苦していました。そんなとき、児童に関わる仕事で勉強しながらやってみないかと行政から声がかかり、引き受けることにしました。

民生委員・児童委員活動のやりがい

地域には様々な課題を抱えた方がいます。民生委員・児童委員として活動の魅力ややりがいなどをお聞かせください。

島尻寛雄さん：私は、自分の居住地域の担当ではなく、隣の地区を担当することとなり、地域の实情がよく分からない状況でした。平成24年に石垣市より要支援者名簿を作るための調査協力依頼があり、高齢者世帯を訪問する機会がありました。調査票を記入していくだけでも一つの家庭で1〜2時間くらい話をすることにします。そこで初めて、普段の訪問だけでは分からないことを把握することができ、民生委員の活

動が分かってきました。

また、その調査の時、「民生委員はいくらの給料をもらっているのか？」と聞かれて、「私たちは、無報酬ですよ」と答えたら、「ありがとう」と言われました。お礼を言われたことが活動の励みになりました。



▲喜納 明美さん

喜納明美さん：地域に目の不自由な高齢のお父さんと息子さんが二人暮らしをしていました。息子さんは仕事のために朝早くから夕方まで出かけており、私が関わった当初は、お父さんは壁をつたってトイレに行ったり、わずかな視力を頼りに食事を作ったりしていましたが、次第に視力が低下し全盲となりました。家から外に出てしまうと帰ってこれず、家族親せきで探し回ることも増え、

日中、一人での生活もままならなくなりました。近くに暮らす娘さんから相談があり、

地域包括支援センターの方々と話し合いを持ちました。最初、娘さんは、出来れば仕事もしたいので、父を施設に入れたいとおっしゃっていました。でも、お父さんに聞いてみると、施設には行きたくないと言ったのです。

それじゃあどうするか、となりました。そこでヘルパーを利用することになりました。娘さんも、「お母さんが早くに亡くなって、自分たち子ども3名を育ててくれたから、お父さんがそう言うなら、ちゃんと面倒を見るのが私たちの役目ですね」と、一時間でもヘルパーが来てくれるだけで、助かります」と言ってくれました。

民生委員だからというだけではなく、同じ地域で暮らす者として、手助けしていくことの大切さを感じました。「ありがとう」と言われたこと、少し手助けできているということが、民生委員・児

童委員のやりがい、魅力かなと思います。

宮良吉雄さん：民生委員・児童委員をやって良かったなあと思うのは、地域の人や機関とつながりを持つことが出来たことです。支援した事例として、県外から戻ってきた50代男性のケースがあります。彼は一人暮らしを

していました。「帰沖後、仕事が無くて大変なことになっていく。食べ物もどうしているか分からない」とお姉さんからの相談がありました。そこで、一緒に社協に相談に行き、弟さんの状況を話したら、生活保護に該当するのではとなり、その日のうちに生活保護の申請に行きました。

次に、小学生以下の子ども4人を抱えている母子世帯



▲宮良 吉雄さん

のケースです。狭い1LDKの部屋で、クーラーもなく、夏は暑い中で生活していました。そこで、那覇市の母子寡婦の相談窓口に繋がったら、母子生活支援施設さくらという施設に入ることができました。

このように行政の窓口や支援機関につなぐことができて、私自身も勉強にもなりますし、やりがいでもあります。

兼城和夫さん：やりがいといえば、退職後、自分の時間が増え、子どもたちへの声掛けや、地域のミニデイサービスに顔を出して、ゆんたくもできるようになりました。「民生委員です」と名乗ることで、地域からも受け入れてもらいやすいのかなと思います。民生委員として活動していれば、地域の姿が見えてきますし、やっていて良かったなと思います。

比嘉臣雄さん：私の住む伊良部島には方言名の地名があります。その方言名の地名を知っているお年寄りが少



▲比嘉 臣雄さん

なくなりました。市役所でも違う名前が表示してしまう状況です。

ところが、子どもたちが地名やその由来など、地域のことに興味を示してきたものですから、一緒に歩いて伊良部特有の方言の発音や地名を教えています。民生委員・児童委員の活動のおかげで健康にもなつたし、やって良かったと思っています。子どもたちには、民生委員が一番いいのかな。

安里信美さん：子どもたちと関わる中で、自分がすぐ成長してきたと実感しています。以前の私は、偏見というのかな、障害のある方は可哀そうだという印象を持っていました。ですが、活動をしていくうちに、この人たちは決し

て可哀そうな存在ではない
ということが分かりました。
経験を重ね、研修会で学びな
がら、相談者に寄り添うには
どうしたらいいか、と考えら
れるようになりました。考え
る自分、視点が変わった自分
の成長がやりがいです。

これからの活動に向けて

**民生委員・児童委員制度
の次なる100年に向けて、
ぜひ、これからの活動への思
いをお聞かせください。**

喜納明美さん：本部町は県外
からの移住者も増えてきて
いますが、そのような方にも
声掛けしながら活動をやっ
ていきたいと思っています。そし
てこれからも民生委員の事
務局である社協と協力しな
がらやっていけたらいいな
と思います。

兼城和夫さん：八重瀬町の場
合は、第一民協(旧東風平町)
は都市化しているのに対し、
第二民協(旧具志頭村)は農
村地域で住民の顔が見える



▲兼城 和夫さん

地域です。そのようなことか
ら、それぞれ地域にあった形
で活動しようと伝えていま
す。民生委員だから何をしま
さい、何をすべきではなく、
各々が出来ることをやって
いくよう心がけています。

安里信美さん：今後の活動と
しては、自治会との交流を持
とうと思っていますが、その
前にまずは民生委員がお互
いのお隣近所に声掛けをし
ていきましようと思ってい
ます。そして地域の人から相
談があった場合には、「聴く」
を心がけています。「目配り、
気配り、おせっかい」をモツ
トに活動し、でも一人では
抱え込まないでね、とお互い
にサポートしながら続けて
いきたいです。

宮良吉雄さん：本県では社会
的孤立の解消と防止に向け

たサンクス運動が始まって
いますが、民生委員・自治会・
社協・包括がそれぞれ頑張
るのではなく、一緒に連携協
働していくことが求められ
ていると思います。私たちは、
支援を必要とする人々を見
つける、見守る、つなぐための
パイプ役として努めていき
たいと思っています。

今回、お話しいただいた6
人の皆さんのお話からは、自
分たちの暮らす地域を良く
していきたい、そのために住
民同士でつながりを持って、
困ったときには必要な支援
に繋ぐという活動にやりが
いと喜びを感じ、生き生きと
されている様子が伝わって
きました。

紙面の都合上、お話しした
だいた内容の全てを掲載す
ることは出来ませんでした
が、皆さん、日々の活動や研
修から自己研鑽を積み、民
生委員・児童委員としての
活動の奥深さを実感されて
おり、一斉改選後も続けたい
とおっしゃっていました。

第11回 沖縄ねんりんピックを開催します!

～県内の高齢者のスポーツ・文化の祭典～

沖縄ねんりんピックは、高齢者に適したスポーツ、文化活動等を通じて、生きがいと健康づくりを進め、明るく活力ある長寿社会づくりの促進を目的に開催しています(主催：沖縄県、沖縄県社会福祉協議会)。

今年度(第11回)の沖縄ねんりんピックは、県立武道館他、県内10箇所で各競技が実施されます。

スポーツ・文化交流大会

日程/6月16日(日)～10月20日(日)

会場/県立武道館・アリーナ棟 他

※日程・会場は、競技により異なります。

- 競技種目
- ・ラージボール卓球 ・テニス ・弓道
 - ・剣道 ・ソフトテニス ・ソフトボール
 - ・ペタンク ・マラソン ・ゲートボール
 - ・太極拳 ・ソフトバレーボール
 - ・グラウンドゴルフ ・ダンススポーツ
 - ・ボウリング ・サッカー
 - ・還暦軟式野球 ・水泳 ・将棋
 - ・囲碁(19種目)



レクリエーション交流行事

日時/9月22日(日)

場所/県立武道館・アリーナ棟

参加費
無料

内容(予定)

ふれあいウォーキング、民謡体操、民謡体験
学習、ニュースポーツ、レクダンス、ラジオ体
操 等

参加対象

スポーツレクリエーション及び健康づくりに
関心のある方ならどなたでも参加できます!

※沖縄ねんりんピックの詳細は、県社協ホームページをご覧ください。【ホームページアドレス】<https://www.okishakyo.or.jp/ikiiki/>

**人材育成・定着に助成金を!!
エルダー・メンター制度
導入促進助成事業のご案内**

沖縄県社会福祉協議会では、エルダーメンター制度導入予定の介護事業所に対し経費の一部を助成します。

(1) 対象事業者

○県内介護保険サービス施設・事業所

(2) 対象経費

- 本県の福祉・介護分野における人材育成がイ
ドライン（平成27年3月沖縄県策定）に基づ
く、人材確保及び育成・定着を目的としたエ
ルダー・メンター制度（※）導入に係る経費
- ①講師を招いて、研修を実施する場合
- ②専門家による、エルダー・メンターに対する
スーパバイズや、人材育成の仕組み作り
に関する支援を行う場合

(3) 申請期限

○令和元年7月12日（金）

(4) 助成決定

○令和元年7月下旬頃

(5) 助成額

○1事業所あたり15万円を上限。（ただし、か
かった経費の2/3以内）
詳しくは本会ホームページをご覧ください。



（※）エルダー・メンター制度とは、先輩職員等による仕
事面でのサポートや精神的な仕事の悩み、人間関係
等のキャリア形成に関するサポートを行う制度

令和元年度の各種別協議会正副会長を御紹介します。

県保育協議会

- 会長 仲地 賢 ドリーム保育園園長
- 副会長 安座間葉子 天願こども園園長
- 仲間 陽子 嘉芸こども園園長

県社会福祉法人経営者協議会

- 会長 高宮城 克 （福）高洋会理事長
- 副会長 金城 敏彦 （福）沖縄県社会福祉事業団理事長
- 大城 初美 （福）愛の園福祉社会理事長
- 豊村 良春 （福）三ライカナイ理事長

県身体障害児者施設協議会

- 会長 新垣武四郎 仁愛療護園施設長
- 副会長 當山 潤 沖縄南部療育医療センター院長
- 安里富士子 沖縄中央療育園施設長

県心身障害児者施設協議会

- 会長 伊佐 智樹 グリーンホーム施設長
- 副会長 知念 隆生 高志保育園施設長
- 川原 伸壮 いしみな救護園施設長

県児童養護協議会

- 会長 上原 裕 石嶺児童園施設長
- 副会長 石川 正紀 なごみ施設長
- 松川 園子 県里親会会長

県老人福祉施設協議会

- 会長 金城 武 ときわ苑施設長
- 副会長 大城 良紀 良長園施設長
- 中真 靖 つしまち施設長
- 玉城 篤子 谷茶の丘施設長
- 喜舎場朝美 福寿園施設
- 宮良 里博 ケアハウスはすきなよお施設長

県地域包括・在宅介護支援センター協議会

- 会長 比嘉 達也 名護市在宅介護支援センター
二見の里センター長
- 副会長 大嶺 盾志 うるま市地域包括支援センター
よなしろセンター長

第11回 沖縄ねんりんピックかりゆし 美術展作品募集!!

第33回全国健康福祉祭岐阜大会美術展出品作品選考会

かりゆし美術展とは？ 高齢者の創作による美術作品を展示し、芸術文化活動における参加機会を設け、明るく活力ある長寿社会づくりに寄与することを目的に開催しています。県内在住の60歳以上（アマチュア）の方ならどなたでも出品可能です。

- ◆ 募集期間／令和元年 7月1日（月）～10月31日（木）
- ◆ 美術展会期／令和元年12月3日（火）～12月 8日（日）
- ◆ 出品資格／県内在住で60歳以上のアマチュアの方
- ◆ 展示会場／沖縄県立美術館 企画ギャラリー1・2
- ◆ 募集作品（6部門）日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真
- ◆ ホームページアドレス（申込書ダウンロードできます）
<https://www.okishakyo.or.jp/ikiiki/>



第10回かりゆし美術展
沖縄県知事賞「乾漆螺鈿花器」

多くの皆様の御応募をお待ちしております!

※沖縄ねんりんピックの詳細は、県社協ホームページをご覧ください。【ホームページアドレス】<https://www.okishakyo.or.jp/ikiiki/>

第1 地域福祉の推進及び

福祉文化の形成

▼「市町村社協実態調査」等により、県内の小地域福祉活動の調査研究を進めるとともに、「コミュニティソーシャルワーク実践セミナー」を開催し、コミュニティソーシャルワーカーの資質向上を図りました。

▼「地域福祉(活動)計画推進研究協議会」の開催や、市町村社協等の計画策定・評価委員会への職員派遣等を通じ、地域福祉(活動)計画の策定・見直しに向けた支援を行いました。

▼県内の福祉関係18団体が参画する「THANKS(サンクス)運動」において、幹事会を開催し、今後の推進策を協議しました。また、運動のシンボルとなるロゴマークの選定や、「県民福祉講演会」の開催等を通じて、県民に対して運動の広報・啓発・普及に努めました。

▼県内3か所の市町村社協を指定して「社会的孤立対策モデル事業」を実施し、地域相談窓口の設置事業等の取り組みを推進するなど、社会的孤立の解消・防止に向けた仕組みづくりの普及促進を図りました。

▼「沖縄県福祉教育推進研究会活動レポート」の各市町村社協での活用を促すとともに、「ボランティア学習・福祉教育セミナー」を開催するなど、福祉教育の推進を図りました。

▼県民児協、全社協、全民児連等8団体と共催で「第87回全国民生委員児童委員大会」を開催しました。また、本県の民生委員児童委員の活動を紹介する冊子を発刊・配布し、本県の活動を広く発信しました。

▼「災害時応援協定に基づく市町村社協会長・事務局長等連絡会」の開催や市町村社協の災害応援協定に基き、マニュアル整備に向けた検討を進めるなど、市町村社協の災害対応力の強化を図りました。

▼西日本豪雨災害に際し、協定に基づき県内から職員を派遣し、被災地の災害ボランティアセンターの運営支援や緊急小口資金の貸付を行いました。【広島県広島市、呉市へ計9陣、延べ18人派遣】



▲THANKS(サンクス)運動のロゴマーク

第2 地域自立生活を支える福祉基盤づくり

▼「生活困窮者自立支援研究協議会」を開催するなど、生活困窮者等の自立に向けた包括的支援体制構築の取り組みを推進しました。

▼市町村社協や生活困窮者自立支援機関等と連携し、生活福祉資金等、各種貸付事業を行い、低所得世帯等の経済的な自立促進を図りました。

▼認知症等により判断力が不十分な方々の地域生活を支援する日常生活自立支援事業の実施体制を「全市町村型」へ移行する方針を定め、市町村社協を対象とした各種会議を開催するなど円滑な移行準備を進めました。

▼福祉サービスに関する利用者等からの苦情について、運営適正化委員会での協議等をもとに相談対応・助言等を行いました。また、巡回訪問や「苦情解決セミナー」等を開催し、苦情解決体制の整備や職員の接遇向上を図りました。

▼高齢または障害のある矯正施設退所者への支援を行う地域生活定着支援事業を実施し、施設入所等の福祉サービスの利用を支援しました。

第3 福祉サービスの質の向上



▲福祉サービスに関する苦情解決セミナー

▼介護福祉士・保育士就学資金等貸付事業を実施し、資格取得支援や人材の確保に努めました。

▼離島における福祉人材確保に向け、県外からの移住促進支援事業を平成30年度から実施し、東京でPRイベントを開催するなど人材確保の支援を行いました。

▼各種別協議会において職員研修を64回実施(延べ5,

929人が受講)したほか、県の委託を受け、福祉職員キャリアパス対応生涯過程の1階層である「チームリーダーキャリアアップ研修会」等を実施(20コース、延べ2,096人が受講)し、社会福祉従事者や民生委員児童委員の資質向上を図りました。

▼県内の介護人材の確保・育成・定着を目的とした「エルダー・メンター制度導入に向けた研修を実施し、同制度の理解促進を図りました。

▼「沖縄県の福祉・介護分野における人材育成ガイドライン」活用セミナーを開催し、福祉施設・事業所の人材育成の取り組みの推進を図りました。

▼各種別協議会、県市町村社協連絡協議会、県社協で構成する「社会福祉法人の公益的な取り組み連携推進会議」を開催し、相談窓口の設置推進や相談担当者の資質向上を図りました。

▼一般市民や介護従事者を対象とした介護技術等に関する講座の開催や、「第8回福祉機器展2018」の開催

等を通じ、広く介護知識や技術、福祉用具の普及啓発を行いました。



▲第8回福祉機器展2018「VR認知症疑似体験」の様子

第4 明るい長寿社会づくり

▼「全国健康福祉祭とやま大会」へ、選手団派遣や美術作品の出版を行いました。また、第10回目を迎えた「沖縄ねんりんピック」及び「かりゆし美術展」の開催を通して高齢者のスポーツ文化交流の推進、芸術活動の普及啓発を図りました。

▼「沖縄県かりゆし長寿大学校」を運営し、地域文化学科等3学科において体系的な学習の場を提供することに

より、生きがいと健康の保持・増進及び地域活動の担い手の養成に努めました。

▼高齢者無料職業紹介事業を実施し、求職登録者と求人事業所のマッチングを行うとともに、高齢者のニーズを踏まえた求人企業の開拓や「高齢者向け職業説明・面接会」を実施し、高齢者の就労支援を行いました。



▲全国健康福祉祭 結団式

第5 企画広報・助成・提言活動の推進

▼総合企画委員会において第4次総合計画の2年次評価を行い、計画の進捗管理と

平成30年度計画の取り組み方針等を確認し、各種事業の効果的な推進を図りました。

▼県社会福祉施策・予算対策協議会において、各福祉施設・団体の要請を取りまとめ、成年後見制度の利用促進に向けた基盤整備等の要請を行いました。(県へ27項目、市町村及び市町村議会へ18項目)

▼「第61回沖縄県社会福祉大会」を開催し、関係者や県民に対し社会福祉の推進について啓発を図るとともに、広報紙「福祉情報おきなわ」やホームページによる情報発信など、広報啓発活動に努めました。

▼社会福祉振興基金の運用果実による助成を行い、民間社会福祉関係団体やNPO法

▼「第61回沖縄県社会福祉大会」を開催し、関係者や県民に対し社会福祉の推進について啓発を図るとともに、広報紙「福祉情報おきなわ」やホームページによる情報発信など、広報啓発活動に努めました。



▲第61回沖縄県社会福祉大会

人等の活動を支援しました。(25団体、48事業)

第6 組織体制・財政基盤の強化

▼各種別協議会と連携し、新設の社会福祉法人や既存の施設への会員加入促進を図りました。

▼安全衛生委員会の開催や産業医による健康相談、「働きやすい職場づくり講習会」を開催する等、職員の安全管理や職場環境の充実を図りました。

▼本会監事による中間監査を実施するとともに、顧問会計士による定期的な会計チェック・指導を受けることにより、より適正な会計・税務処理に努めました。

▼県総合福祉センターの適正な貸館業務に努めるとともに、講習会等の自主事業を実施しました。また、随時、建物及び設備の修繕・整備を行い、利用者の利便性、快適性の向上を図りました。

平成30年度 沖縄県社会福祉協議会決算報告

平成30年度一般会計の決算は、収入総額1,566,431千円に対して、支出総額1,338,216千円となり、収支差額(当期末支払資金残高)は228,215千円となりました。その内訳は、社会福祉事業が16,340千円、公益事業が210,890、収益事業が985千円となっています。公益事業の収支差額が2億円を上回っていますが、その要因は貸付原資への補助金210,721千円が年度を越えての入金となるため、積立資産支出としての執行ができなかったためです。

福祉資金貸付会計等の収支差額については3,607,976千円となり、ほぼ全てが低所得者等への貸付金の原資となります。

I 一般会計 収支の状況

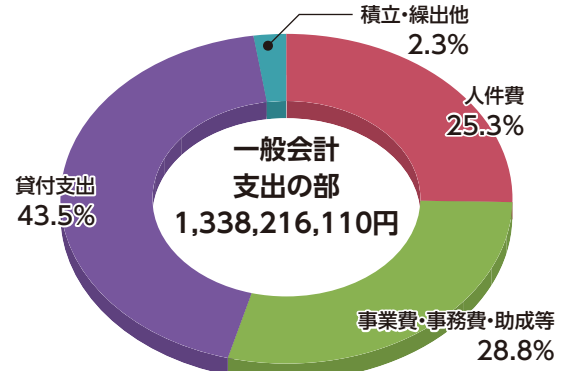
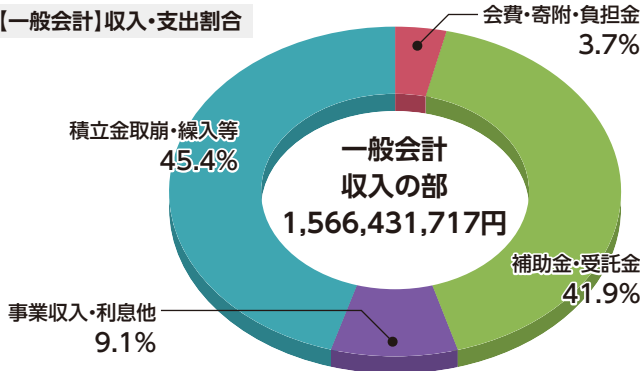
一般会計は社会福祉事業、公益事業、収益事業の3つの事業に区分されます。社会福祉事業については、主に地域福祉の推進、地域自立生活の支援、福祉施設の人材育成および福祉団体活動の支援、長寿社会づくりの推進、企画広報及び助成の推進などを行っています。公益事業については、介護福祉士や保育士の資格取得の支援及び人材確保、児童養護施設等を退所した方への自立支援資金などの貸付を行っています。収益事業については、社会福祉事業を補完するための事業を行っており、賃貸事業や沖縄県総合福祉センターの指定管理業務などが主な事業となっています。

収入については、補助金・受託金及び取崩収入が大部分を占めており、支出については、貸付支出、事業費、並びに人件費が大部分を占めています。支出における各事業区分の構成比については、公益事業が大きな割合を占めています。

資金収支計算書		事業活動計算書		貸借対照表	
単位:円		単位:円		単位:円	
支出	収入	支出	収入	借方	貸方
人件費	338,975,601	人件費	342,597,733	流動資産	300,938,016
事業費(※)	193,420,647	事業費	193,420,647	現金預金	25,435,148
事務費等	109,024,756	事務費・負担金等	119,589,328	未収金等	275,502,868
貸付支出(※)	581,927,700	助成金費用	71,070,130	固定資産	4,893,089,050
助成金	71,070,130	減費・引当・免除等	99,579,508	基本財産	1,000,000
負担金・分担金	12,409,500	国庫取崩額等	△111,647,106	有形資産	98,434,682
固定資産取得等	1,765,044	国庫積立額等	210,721,000	無形資産	1,583,590
積立資産支出	18,805,012	積立金積立	8,699,640	貸付金	1,798,590,600
その他の支出	10,817,720	法人税等	2,148,300	積立資産	3,021,606,263
当期資金残高	228,215,607	次期繰越差額	26,673,684	引当金	△28,126,085
計	1,566,431,717	計	962,852,864	計	5,194,027,066
				流動負債	86,949,409
				未払金等	67,135,418
				その他	19,813,991
				固定負債	236,441,048
				純資産	4,870,636,609
				基本金	1,000,000
				基金	1,505,139,413
				国庫積立	2,773,707,801
				積立金	564,115,711
				次期繰越差額	26,673,684
				計	5,194,027,066

※資金収支計算書にける貸付支出については事業費にて計上されていますが、かなり高額となるため決算状況が把握しやすいよう、事業費から除き貸付支出として記載しています。

【一般会計】収入・支出割合



【一般会計】事業区分 構成比率



II 貸付会計等

(生活福祉資金・要保護世帯向け長期生活支援資金・生活福祉資金貸付事務費・臨時特例つなぎ資金) 収支の状況

貸付金の原資をもとに、低所得世帯等の自立支援貸付事業を行っているため、収入の大部分が原資となっています。平成30年度における貸付支出は157,945千円で、償還金収入等は274,185千円となりました。また、国の通知により7年間(H29年度～R5年度)にわたり総額93,396千円の貸付原資の返還が求められており、今年度については13,342千円の返還を行いました。

資金収支計算書		事業活動収支計算書		貸借対照表	
単位:円		単位:円		単位:円	
支出	収入	支出	収入	借方	貸方
人件費	49,256,889	人件費	45,659,669	流動資産	3,613,274,086
事業費	52,034,119	事業費	52,034,119	現金預金	3,592,291,899
事務費	11,492,317	事務費	11,492,317	未収金等	25,321,308
貸付支出	157,945,429	減費・引当	4,132,959	引当金	△4,339,121
流動資産評価損	26,964	国庫補助取崩	△1,574,262	固定資産	3,375,992,589
積立・繰出等	98,441,009	繰出・その他	95,585,765	有形資産	2,948,964
国庫補助返還	13,342,000	積立金積立	464,845	投資証券	1,063,230,000
当期資金残高	3,607,976,098	次期繰越差額	△396,753,124	貸付金	2,152,603,377
計	3,990,514,825	計	△188,957,712	積立資産	371,908,210
				引当金	△214,697,962
				計	6,989,266,675
				流動負債	25,065,109
				未払金等	22,979,109
				引当金	2,086,000
				固定負債	69,146,894
				長期未払金	53,370,000
				引当金	15,776,894
				純資産	6,895,054,672
				国庫積立	6,769,827,626
				積立金	521,980,170
				次期繰越差額	△396,753,124
				計	6,989,266,675

地域の人々が明るいネットワークを 築き支えあう社会の実現のために

～子どもの居場所ネットワーク事業を通して～

現在、子どもの居場所は全国で急速に増加しており、その目的やサービス、運営団体、財源についても、多種多様となっています。県内においても全国同様取り組みが広がっていますが、個々の取り組みやノウハウが共有されにくく、また企業等からの支援等の受入についても、個別の対応・調整となっているなど、支援につながりにくいといった課題が指摘されています。

そこで県社協では、地域の子ども食堂や子どもの居場所の活動を支えるため、運営者、支援者、関係機関・団体等がゆるやかにつながり、支え合う広域的なネットワークをつくることを目的に、県が進める沖縄子供の貧困緊急対策事業に基づく「沖縄県子どもの居場所ネットワーク事業」を THANKS（サンクス）運動の一環としてスタートすることとしました。

主な内容としては、子どもの居場所を対象とした連絡会の開催を通して、課題の共有・解決に向けた意見交換や好事例の情報発信、支援策の検討を行うなど、活動の活性化につなげます。

子どもの居場所運営者、地域、学校・行政・企業との連携をしながら、沖縄の子どもたちを地域全体で包み込めるようなネットワーク作りを目指してまいります。

事務局

沖縄県社会福祉協議会 地域福祉部

〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1(沖縄県総合福祉センター西棟4階)

電話:098-887-2000 FAX:098-887-2024 E-mail kodomo-ibasyo@okishakyo.or.jp

平成31年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

① 基本補償(賠償・見舞)

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
補基本 1~50名	35,000~61,460円
補基本 51~100名	68,270~97,000円
補基本 100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞費用 補償(B型)	基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円



です。 充実した補償と 割安な保険料

スケールメリットを活かした

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償(改定)

プラン4 社会福祉法人役員等の補償

◆クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4) (改定)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉 TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJNK18-12811 2018.12.28作成)



沖縄県共同募金会 平成30年度事業報告概要

赤い羽根共同募金運動の実施

平成30年10月～平成31年3月に実施した赤い羽根共同募金運動には、約1億8千49万円余の寄付が寄せられました(表1)。

市町村別では、目標達成が20市町村と昨年度(29年度)22市町村)を下回りましたが、昨年度実績額を上回った19市町村(29年度22市町村)の

平成30年度赤い羽根共同募金(一般)実績内訳

(単位:円)

募金内訳	30年度目標額	30年度実績額	達成率	29年度実績額	対前年度比較増減
市町村一般募金		167,610,347		166,327,018	1,283,329
県共募取扱		12,881,699		13,499,826	▲618,127
合計	205,971,000	180,492,046	87.6%	179,826,844	665,202

平成30年度一般募金配分内訳表(令和元年度事業)

(単位:円)

区分	計画額(目標)	配分内定額 ※(令和元年度事業)	配分割合
《A配分》(県域)	75,000,000	73,489,000	
広域事業配分	22,705,000	22,532,000	12.2%
募金運動経費	15,920,000	16,397,000	8.9%
市町村事務費	12,000,000	12,000,000	6.5%
次年度運動積立金	16,000,000	16,000,000	8.6%
災害等準備金	8,375,000	6,560,000	3.5%
《B配分》(市町村)			
市町村事業配分	130,971,000	111,637,718	60.3%
計	205,971,000	185,126,718	100.0%

※内定額には前年度配分返還金、災害準備金取崩し、預金利息を含んでいます。

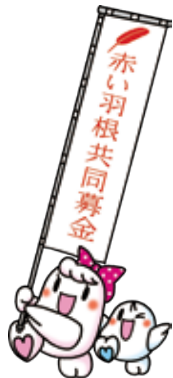
増額が大きく、結果として全体では昨年度に比べ約66万円の増額になりました。

集められた寄付金から、広域施設団体の事業へ2千253万2千円、41市町村の地域福祉事業として1億1千163万7千円余の配分が内定し、5千597万余は共同募金運動経費、災害等準備金などに充てられました。(表2)

テーマ型募金の実施

1月4日から3月31日の期間に県域で子どもの学びと育ちを支えることをテーマに琉球新報社と協働で「りゅうちゃん子どもの希望募金」寄付を募り、754万円余(昨年度比約145万円増)が寄せられました。集められた募金は、子どもの支援活動に取組んでいる団体や児童養護施設等25団体へ助成が内定しています。

また糸満市では、子どもの支援を行う拠点の活動費造成を目的に寄付を募り、78万円余が寄せられました。さらに浦添市でも住民主体の福祉サービス推進を目的に寄付を募り35万円余が寄せられました。(表3)



平成30年度テーマ型募金実績一覧 募金期間:平成31年1月～3月

募金種別	目標額	募金実績額	H29年度募金額	前年比差額
りゅうちゃん子どもの希望募金	6,000,000	7,544,368	6,089,705	1,454,663
浦添市テーマ型	500,000	355,000	—	355,000
糸満市テーマ型	500,000	787,311	569,473	217,838
合計	5,500,000	8,686,679	6,659,178	2,027,501

歳末たすけあい運動の実施

12月1日から31日まで、「つながりささえあうみんなの地域づくり」をスローガンに歳末たすけあい運動を市町村社会福祉協議会と協働で実施しました。

市町村での募金額は、5千438万円余(昨年度比約188万円減)となり、目標達成を達成した市町村は17市町村(昨年度20市町村)となりました。

また、県域のNHK歳末たすけあい運動での募金額は589万円余となり、昨年度

平成30年度歳末たすけあい募金実績額

募金期間:平成30年12月

募金種別	目標額	募金実績額	H29年度募金額	前年比差額
市町村歳末たすけあい募金	58,198,000	54,383,208	56,268,396	▲1,885,188
NHK歳末たすけあい募金	9,000,000	5,898,437	5,720,814	177,623
合計	67,198,000	60,281,645	61,989,210	▲1,707,565

実績額より約17万円増額となりました。(表4)
集められた浄財は、市町村社会福祉協議会を通して支援を必要としている方や、離島町村の要援護世帯へ義援金などとして配分したほか、NPO法人や障害者サービス事業所などへ備品整備や歳末の行事費として助成を行いました。

災害たすけあい運動の実施

中央共同募金会や被災地の各県共同募金会と連携して行い、昨年度発生した「平成30年7月豪雨災害」など4件の大規模災害、平成28年「熊本地震」と平成29年「九州北部豪雨災害」について市町村共同募金委員会を通じ義援金を募集しました。

集まった義援金は各被災県共同募金会へ送金しました(表5)。その全額が被災者へと配分されることになっていきます。また、平成30年7月豪雨災害では、岡山県、広島県及び愛媛県に設置された災害ボランティアセンター38か所の運営費に助成するため、災害準備積立金の一部を取り崩し535万円拠出しました。

特定指定寄付の取り扱い

税制優遇を受けることができる本会を通じた社会福祉法人等への寄付は、2法人から指定寄付の委託を受け、中央共同募金会の審査を経て寄付先の法人へ支払を行いました。(表6)

平成30年度特定・指定寄附金一覧

(単位:円)

No.	寄附者名	受入年月日 寄附額	払出年月日 配分額	審査 手数料	受配 団体名	使用内容
1	医療法人 カムラ会	2018.4.27 92,021,908	2018.10.26 90,501,689	1,520,219	社会福祉法人 ムサアザ福祉会	障害者デイサービスセンター等施設建築費の一部
2	株式会社 ジーセット メディカル	2018.10.27 7,422,680	2018.10.30 7,200,000	222,680	社会福祉法人 風信子館	追加工事に係る銀行借入金年額償還に充当
合計(2件) 99,444,588円						

平成30年度災害義援金一覧(被災者見舞金)

名称	送付先	県共募集約	市町村取扱	計
平成28年熊本地震義援金	熊本県共同募金会	81,146		81,146
平成29年7月九州北部豪雨災害義援金	福岡県共同募金会	19,504		19,504
平成30年6月大阪北部地震義援金	大阪府共同募金会	1,216,638	1,161	1,217,799
平成30年米原市竜巻災害義援金	滋賀県共同募金会		405,252	405,252
平成30年7月豪雨災害義援金	中央共同募金会	15,225,477	9,222	15,234,699
	岡山県共同募金会	207,696		207,696
	広島県共同募金会	382,000	2,060	384,060
	福岡県共同募金会	201,000		201,000
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	北海道共同募金会	344,379	225,594	569,973
計		17,677,840	643,289	18,321,129

平成30年度 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業 決定一覧表

(単位:千円)

番号	法人名	所在地	施設名	施設の種類	要望物件	決定額	助成率
1	(特非)交流広場ハッピーハウス	宜野湾市	未来の宝 アダマス plus+	児童発達支援センター	車輜購入事業(乗用車)	1,000,000	36.0%
2	(福)久仙会	久米島町	特別養護老人ホームくめしま	介護老人福祉施設	車両購入事業(リフトバス)	1,270,000	23.9%
3	(福)そてつ	那覇市	ドリームワークそてつ	就労継続支援B型	パン製造機器整備事業	1,000,000	59.4%
4	(福)しのめ福祉会	宜野湾市	しのめこども園	認定こども園	図書コーナー設置事業	510,000	73.7%
5	(福)たまん福祉会	糸満市	就労支援センター たまん	就労継続支援B型	印刷機器購入事業	1,000,000	40.5%
6	(福)トゥムイ福祉会	糸満市	障害者就労支援施設イノー	就労継続支援A・B型	コンロ及びダクト整備事業	720,000	74.0%
計						5,500,000	

中央競馬馬主社会福祉財団の委託を受けて、助成事業の申請の募集、審査、推薦業務を行い、社会福祉法人等6団体の備品・車両整備に550万円を助成しました。(表7) また、アサヒオリオン飲料から県内子ども食堂へ飲料水寄贈と助成金の要望を2件取りまとめ推薦を行いました。

公益資金補助事業の取扱い

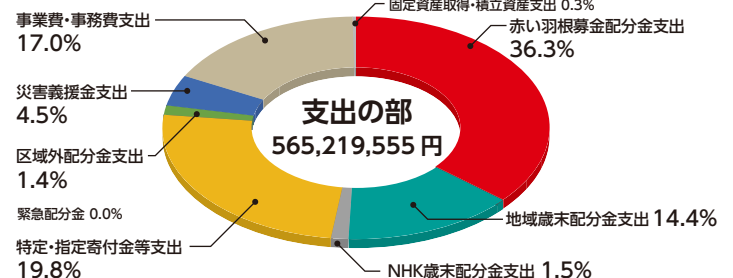
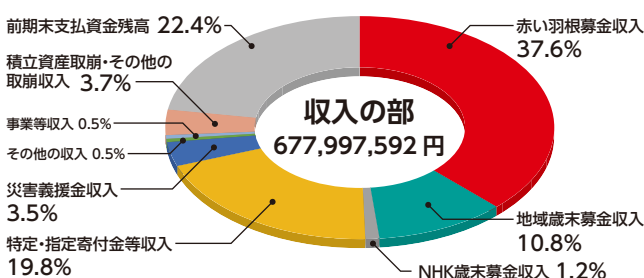
平成30年度 沖縄県共同募金会決算報告

(単位:円)

資金収支計算書		
支出	収入	
赤い羽根募金配分金支出	赤い羽根募金収入	189,178,913
地域歳末配分金支出	地域歳末募金収入	54,383,259
NHK歳末配分金支出	NHK歳末募金収入	5,898,437
特定・指定寄付金等支出	特定・指定寄付金等収入	99,844,588
緊急配分金	災害義援金収入	17,677,833
災害義援金支出	事業等収入	2,437,084
区域外配分金支出	その他の収入	2,656,655
事業費・事務費支出	積立資産取崩・その他の取崩収入	18,563,240
固定資産取得・積立資産支出		
当期末支払資金残高	前期末支払資金残高	112,778,037
合計	合計	503,418,046

事業活動収支計算書		
費用(支出)	収益(収入)	
赤い羽根募金配分金費用	赤い羽根募金収益	189,178,913
地域歳末配分金費用	地域歳末募金収益	54,383,259
NHK歳末配分金費用	NHK歳末募金収益	5,898,437
特定・指定寄付金等費用	特定・指定寄付金等収益	99,844,588
災害義援金費用	災害義援金収益	17,677,833
区域外配分金費用	災害等準備金取崩収益	9,849,506
緊急配分金	事業等収益等	2,437,084
事業費・事務費	その他の収益	2,656,655
減価償却費		
災害等準備金繰入		
次期繰越活動増減差額	前期繰越活動増減差額	77,038,415
合計	合計	458,964,690

貸借対照表			
資産の部		負債の部	
流動資産	264,478,088	流動負債	192,621,399
		固定負債	5,658,610
固定資産		純資産の部	
基本財産	3,000,000	基本金	300,000
その他の固定資産	79,925,129	その他の積立金	73,524,013
		次期繰越活動収支差額	75,299,195
合計	347,403,217	合計	347,403,217



※実績報告及び決算報告などは本会のホームページでも公開しています。<http://www.okishakyo.or.jp/kyoubou/>

沖縄県社会福祉協議会 第35期 理事・監事 改選 — 会長に湧川昌秀氏が再任

沖縄県社協では、6月25日に開催された定時評議員会において第35期理事・監事の選任が行われ、同日午後開催された第2回理事会において新理事の中から湧川昌秀氏が会長に再任されました。



▲【写真左から3番目】本会 会長 湧川 昌秀
 【写真右から2番目】本会 副会長 金城 榮幸
 【写真左から1番目】本会 副会長 藏當 博文
 【写真左から2番目】本会 副会長 本永 静江
 【写真右から1番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治

寄付・寄贈者芳名

(4月1日～6月1日)

御寄付・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。

- いけばなインターナショナル 沖縄支部様
- 佐久川 正代様
- 株式会社モダンプロジェクト
- 日本生命労働組合 那覇支部様
- 豊見山 愛様

第35期 沖縄県社会福祉協議会 役員名簿

定数：理事13名～16名、監事3名
 任期：令和元年6月25日～令和3年度定時評議員会の終結の時

1. 理事		
氏名	所属機関・団体	
湧川 昌秀	沖縄県社会福祉協議会 会長	再任
金城 榮幸	沖縄県市町村社協連絡協議会 会長	新任
藏當 博文	沖縄県民生委員児童委員協議会 会長	再任
本永 静江	沖縄県婦人連合会 会長	再任
嘉陽 孝治	沖縄県社会福祉協議会 常務理事	再任
金城 敏彦	沖縄県社会福祉事業団 理事長	再任
大城 幸哉	西原町社会福祉協議会 会長	新任
高宮城 克	沖縄県社会福祉法人経営者協議会 会長	再任
伊敷 康子	糸満市ボランティア団体連絡協議会 顧問	再任
宮里 達也	沖縄県医師会 副会長	再任
仲座 明美	沖縄県看護協会 会長	再任
金城 克也	沖縄県経営者協会 会長	再任
當眞 淳	沖縄県町村会 副会長	再任
大城 玲子	沖縄県子ども生活福祉部 部長	再任
富樫 八郎	沖縄大学 客員教授	再任
濱田 剛	大同火災海上保険(株) 代表取締役副社長	再任
2. 監事		
氏名	所属機関・団体	
前川 英伸	児童養護施設 美さと児童園 園長	新任
宮城 正	南城市社会福祉協議会 事務局長	新任
山内 眞樹	山内公認会計士事務所 所長	再任



▲(株)モダンプロジェクト様(4.18)
 【写真左から2番目】(株)モダンプロジェクト 資産活用部 広報担当 坂本 麻衣 様
 【写真左から1番目】(株)モダンプロジェクト 沖縄オフィス 与儀 尚靖 様
 【写真右から2番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治
 【写真右から2番目】本会 事務局長 高良 正樹



▲日本生命労働組合那覇支部様(4.18)
 【写真左から2番目】日本生命労働組合那覇支部 委員長 竹本 伸介 様
 【写真左から1番目】日本生命労働組合那覇支部 社外交流部長 宮里 眞紀子 様
 【写真右から2番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治
 【写真右から2番目】本会 事務局長 高良 正樹

※本会への寄付については、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは総務企画部まで

編集後記

夏本番！エイサー！
 ハーリー！etc！
 夏バテに負けず、楽しんでいきましょう！

今回の作品は礁湖において繰り広げられる生き物の生死が描かれており、「死生観」をしっかりと持つことで、生きがいがあり、何かを生み出し、人に感動を与えることができる。今後も精力的に作品を描いていきたいと力強く語りました。

その後は、戦後まもなく首里の儀保にできた「西森(ニシムイ)美術村」で活動する先輩美術家のもとで腕を磨きつつ、沖展への出展等、様々な活動を続けてきたそうです。

那覇市在住の名嘉地義昭さん(87歳)。小学1年生の頃、塗り絵の授業で出たお題はチューリップ。当時はまだ見かける機会が少なく、花と葉っぱの色を逆に塗ってしまったそうです。しかし、これをきっかけに名嘉地さんは絵に興味を持つようになった。

表紙の絵

作品名 礁湖2
 作成者 名嘉地 義昭さん